特集

パーキング業界の明日 108

『自転車・バイク・自動車駐車場　パーキングプレス』誌 発行人・森井 博が聞く

駐車場は「量」「質」の両面から まちづくりの一翼を担っている

【プロフィール】
石井啓一（いしい けいいち）
1958年3月20日生まれ。東京大学工学部卒業後、1981年建設省入省。1992年建設省退職（道路局課長補佐）。1993年衆議院議員第1期目当選（第40回総選挙）。以降、2017年の第48回総選挙まで、9期連続の当選を果たす。2003年財務副大臣、2010年公明党政務調査会長等、要職を歴任。2015年第3次安倍改造内閣で国土交通大臣・水循環政策担当として入閣以降、現在に至る

本号は平成最後の発行となるだけに、各界のキーパーソンを招いて継続してきたこの特集対談も、非常にメモリアルなものとなる。今回、それにふさわしいゲストをお招きすることができた。石井啓一国土交通大臣である。

石井氏は2015年5月、第3次安倍改造内閣において国土交通大臣に就任。2018年7月19日に在職日数が歴代の国土交通相のなかで最長となった。

石井大臣はこれまで、我が国を襲った多くの自然災害からの復旧・復興、防災・減災や国土の強靭化、訪日外国人旅行者数増加への対応など、さまざまな課題に取り組まれてきた。また、自動車・自転車駐車場に関する施策や自転車活用推進計画の推進、シェアサイクルの普及、コンパクト+ネットワークの推進、東京オリンピック・パラリンピックに向けた都心部の交通施策、まちのにぎわいの創出など、パーキング業界に深く関わる仕事も多いのはご存じのとおりだ。

目前に迫った平成の次の時代に向け、私たちが執るべき方針は何なのか。そのヒントを得るために国土交通省を訪ね、石井大臣に諸々の質問をさせていただいた。多忙な中、大臣は丁寧にご回答くださり、非常に有意義な対談となった。

（対談収録：2019年3月19日）

駐車場のあり方は転換期を迎えている

森井　まずはパーキング業界の中核を成す自動車駐車場についてお聞きしたいと思います。大都市においては、既に自動車駐車場の整備は充足しつつありますが、その一方で、駅前や中心市街地において、局所的に荷さばき駐車場や自動二輪車駐車場の不足も見られます。都市部の自動車駐車場整備についてはどのような見解をお持ちでしょうか。

石井　自動車保有台数の伸びが鈍化する中、駐車場供給台数は増加傾向で推移しています。こうしたこともあり、稼働率の低い駐車場が発生したり、過剰な駐車場がまちの面積の多くを占めることで、まちの賑わいが失われる地域も見られます。駐車場施策も転換期を迎えているといえるでしょう。

森井　どのような対策が考えられるでしょうか。

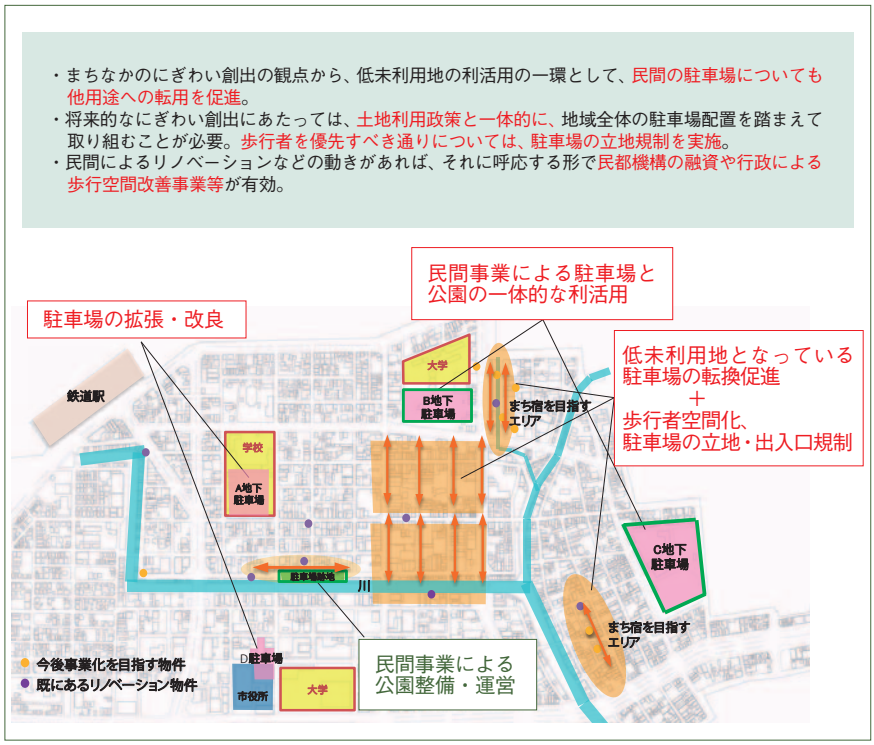
石井　まず、これからの時代においては、歩行者中心の賑わいのある都市空間を創り上げていくことが重要だと考えています。そのためには、最初に自らの「まちづくり」について、総合的な交通体系はもとより、それぞれの地域の土地利用、様々な民間活動の動向など、多様な観点を踏まえながら、自らの都市の将来と、その中で歩行者中心の空間をどこに、どうつくっていくかを検討することが大切だと思います。その上で、クルマと人との接点である駐車場がどうあるべきかを考える必要があります。エリア全体での駐車場の需給バランスや、まちづくり計画などを踏まえつつ、例えば駐車場の集約化や出入口のコントロールなど、より良い駐車場のあり方を考えていくことが重要です。

森井　より良い駐車場であるためには、具体的に何が必要だと思われますか。

石井　その地域の駐車需要に見合った、駐車場の適正な「量」的コントロールが求められるほか、その総量のみならず、荷さばきや自動二輪車など、用途別の適正化も重要になると思います。また、その一方で、都市空間の魅力減退、市街地の空洞化などの問題に対して、駐車場の位置・配置など「質」的なコントロールも重要でしょう。つまり、量的、質的、双方の観点から、まちづくりの一環として駐車場施策に取り組むことが求められると考えています。

森井　これからの駐車場は、自動車、自転車などを駐める本来の機能に加えて、付加価値を持たせることも求められるという考え方がパーキング業界内には定着しています。例えば、EV、

民間駐車場も含めた土地利用転換の具体的なイメージ



まちのにぎわいの創出のためには、駐車場を中心エリアの外側に集約するなどの対応が重要となってくる

PHVの増加に対応する充電器の設置、Wi-Fi環境の構築、インバウンド、国内地方から訪れる観光客に対しての観光情報発信スポット等々が挙げられます。このことに対してはどのような見解をお持ちでしょうか。

石井　附置義務駐車場の集約先の駐車場など、今後も必要性の高い駐車場については、地域の課題解消に貢献できるように、駐車場の新たな付加価値の創造など、駐車場の「質」を高める取り組みを進めることが望ましいと思います。

森井　例えばどのような取り組みでしょうか。

石井　考えられるのは、駐車場予約システムの整備や観光情報の発信のためのデジタルサイネージの設置など、地域の状況に応じた多様なサービスの提供などです。そのほかにも、災害時の避難拠点として利用できるよう備蓄倉庫などを設置すること、都市環境の向上のために緑化することなどが考えられます。また、中心市街地等の有用な場所にある駐車場においては、駐車場を臨機応変に利用したイベントの開催などを積極的に行うことにより、賑わいの創出が期待できます。

MaaSなどの技術革新による新たな時代の要請に応えるシェアサイクルに期待

森井　では次に、シェアサイクルについてお聞かせください。東京都心はもとより、近年は全国的にも導入する自治体が増えており、ビジネスユース、観光目的など利用者は徐々に増えています。これについてはどのような見解、期待をお持ちでしょうか。

石井　自転車は環境負荷の少ない乗り物であり、健康志向の高まりを背景にその利用ニーズが高まっています。また、公共交通とともに公共性を有するモビリティとしても役割の拡大が求められています。そうした中において、シェアサイクルは、相互利用可能な複数のサイクルポートを設置することで、都市内において利便性の高い交通手段を面的に提供するシステムです。公共交通の機能補完としての導入はもとより、環境負荷の低減や地域の活性化、観光振興など多様な目的のもと、全国で2018年3月までに135都市で導入されるなど、着実に進展しています。

森井　私が専務理事を務めている一般社団法人日本シェアサイクル協会へも、各自治体からの問い合わせが増えていると聞いています。

石井　さらに近年、ICT技術の進展などにより、シェアサイクルはその形態も大きく進化してきています。予約・決済システムの多様化、インターネットによる経路検索機能、各都市の導入システムの共同化など、様々な仕組みが研究・導入されており、MaaSなどの技術革新による新たな時代の要請に応えるシェアサイクルに期待しています。

森井　MaaSなどの新たなモビリティサービスの全国展開については、国土交通省が「都市と地方の新たなモビリティ

視察風景

霞ヶ浦湖岸や筑波山方面をルートに持つ「つくば霞ヶ浦りんりんロード」（❶）、JR常磐線土浦駅に整備された全国初の駅直結サイクリング拠点「りんりんスクエア土浦」（❷）を視察する石井大臣

サービス懇談会」を定期的に開催され、幅広い議論の場をつくられていますよね。この取り組みによって、今後、国内でのMaaS普及に拍車がかかることに期待したいと思います。さて、続いて東京都心部に特化したシェアサイクルについてお聞かせください。都内では現在10区（千代田区、中央区、港区、新宿区、文京区、江東区、品川区、目黒区、大田区、渋谷区）で、区境を超えてのシェアサイクル相互利用が実施され、その利便性が高く評価されています。この取り組みについてはどのような考えをお持ちでしょうか。

石井　鉄道駅の近辺におけるサイクルポート数も増加傾向にあると聞いています。シェアサイクルが公共交通との連携を深めることにより、都市交通を担う移動手段としての更なる役割を担っていくことを期待しています。また、東京を始めとするシェアサイクルが都市交通の一翼を担う移動手段として成長し、シェアサイクルそのものも様々な進化を続ける中、関係者間での知見やノウハウの共有化を進めていただくことを期待して、昨年11月30日に全国シェアサイクル会議を開催し、官民の情報共有を図ったところです。

森井　昨年6月に閣議決定された自転車活用推進計画でも、シェアサイクルの普及促進が施策のひとつに掲げられていますね。

石井　そのとおりです。今後とも、東京を始めとした全国各地においてシェアサイクルの普及促進が進み、身近で手軽な交通手段として定着していくよう、支援してまいります。また、さらなる普及促進を図るためには、地方公共団体だけではなく、様々な知見やノウハウを有する民間事業者などと協力しながら官民連携で事業に取り組むことが重要だと考えています。

買い物、通勤など ニーズに即した 駐輪場整備が必要

森井　もうひとつ自転車に関してお聞きしたいのが、放置自転車の問題です。1980年頃のピーク時には全国で100万台超に達していましたが、2017年には約6.2万台に減少しました。この結果は

非常に喜ばしいことですが、今でもまだ6.2万台もある、と考えることもできます。昨今、都市部を中心に自動車利用から自転車利用へ転換する傾向がある中、私は、従来、重点的に駐輪場が整備されてきた駅前だけでなく、まちなかの駐輪場整備も必要と考えています。大臣はどのような見解をお持ちでしょうか。

石井　1981年に自転車法（自転車の安全利用の促進及び自転車駐車場の整備に関する法律）が施行され、それによって附置義務を含めた駐輪場の整備等が進められたことで、今お話いただいたように、放置自転車対策に一定の効果がありました。ただしその一方で、駅周辺や中心市街地には依然として放置自転車が存在しており、景観の観点や災害時等に歩行者や自転車の通行の妨げになるという防災上の問題は残っています。こうしたことから、引き続き駐輪場整備を進めていくことは必要と考えています。また、鉄道利用による駅周辺の長時間放置だけではなく、買い物客などの短時間利用や勤務地に直接向かう従業員の通勤利用による放置自転車があることも認識しており、今後はそれぞれのニーズに合わせた駐輪場整備が重要となります。このようなことから、2016年に「自転車等駐車場の整備のあり方に関するガイドライン」を地方公共団体

第9回全国シェアサイクル会議

昨年11月に開催された「第9回全国シェアサイクル会議」には全国からたくさんの聴講者が訪れた

向けに作成・公表しました。具体的には、買い物客などへの対応として利便性の高い小規模な自転車等駐車場の確保策や、鉄道駅のみならずバス停等における自転車等駐車場の整備、商店街の各種割引サービスとの連携等の地域と連携した取り組みなどについて解説しており、きめの細かい駐輪場整備の促進を図っています。

五輪期間中、駐車場は各会場へ向かう起点に

森井　続いて来年の東京オリンピック・パラリンピックに関してお聞かせください。開催に伴い、国内外から多くの観光客や物資などが集積し、交通渋滞が発生することが懸念されています。また、開催を目前に控えた今、都心部のあちこちで再開発が活発化しており、工事用車両などの通行も増えています。都心部における交通のあり方については、どのような見解を持たれていますでしょうか。

石井　都心部の交通施策については、必要なインフラ整備を鋭意進めるとともに、公共交通の整備についてもしっかりと取り組んでいくといった総合的な都市交通施策が重要であると考えています。例えば東京都内においては、環状2号線をはじめとした街路整備とともに、虎ノ門ヒルズ駅の整備をはじめとした交通結節点の整備が進められています。また、都心と臨海地域を結ぶBRTが東京2020大会開催に先立って部分的な運行を開始し、大会後の選手村跡地等周辺の開発に合わせて順次本格運行を行う予定です。様々な取り組みが総合的に進められているところですので、国土交通省としても、しっかりと支援してまいりたいと考えています。

森井　BRTは「東京BRT」の正式名称や美しいレインボーのシンボルカラー、車両デザインなどが既に発表されています。都心部に久しぶりに登場する新たな交通システムということで、大いに期待をしています。

石井　都市交通は、人々の市民生活や、地域経済を支える重要な役割を担っています。東京をはじめとした大都市においては、都市交通の円滑化は都市に活力をもたらし、国際競争力を高める極めて重要な取り組みです。国土交通省としても、都市交通の円滑化に向けた様々な施策を鋭意進めてまいります。

森井　都市交通の円滑化では、どんなことがポイントになるとお考えですか。

石井　重要なのは交通とまちづくりが連携した、総合的な交通・まちづくり施策の推進であると考えています。引き続き、まちづくりと交通政策を一体的に取り組んでいくことの重要性を発信し、これらの取り組みを支援してまいります。

森井　大会開催時には、スムースな人の移動を支える存在として、自動車駐車場・自転車駐車場およびシェアサイクルは大きな役割を担うと考えられます。これについて、どのような見解、期待を持たれていますでしょうか。

石井　大会期間中は都心を中心に膨大な人の移動が発生します。各会場に観戦に向かう人が集まる、あるいは各会場に向かう起点となる場所が必要となるため、その役目を既存の駐車場が担うことは有効かもしれません。また、本大会を機に都心部のシェアサイクルがますます普及し、大会の円滑な運営に貢献することに期待しています。

「目指すべき将来像」に向け各都市は駐車場と連携したまちづくりを

森井　では最後の話題として、国土交通省が長年推進してきた「コンパクト＋ネットワーク」についてお聞きします。自動車駐車場、自転車駐車場が、パークアンドライドやサイクルアンドライドなど、違うモードへ移るための結節点となることから、コンパクト＋ネットワークは、パーキング業界にとっても大きな意味を持つ施策と捉えています。また、カーシェアリングの拠点として使えることも、コンパクト＋ネットワークの施策に適していると考えられます。さらに加えれば、まちの賑わいの創出のための駐車場のフリンジ集約化など、まちにおける駐車場の役割も重要になってくると思われます。これらについてはどのような見解、期待をお持ちでしょうか。

石井　コンパクト＋ネットワークの取り組みにおいては、まちづくりと交通の連携の強化が求められると考えています。その中で駐車場は、自動車という都市にとって重要な交通手段を支える装置であり、人とクルマとの結節点ともいえる存在です。一方で、これまで都市における駐車場のあり方については、必ずしも地域のまちづくりの方針や、地域のまちづくりの将来像との関係が希薄だったことも事実です。

森井　おっしゃるとおりですね。努力はしているものの、地域によっては、まちづくりと駐車場開発がうまく連動していなかったケースも見られました。

石井　まちづくりと交通の観点から、よりミクロな視点で駐車場を考えれば、

東京BRTのデザイン

先ごろ発表された「東京BRT」のデザイン。2019年度末には虎ノ門～晴海二丁目間でのプレ運行が始まる

まちなかの様々な場所における自動車の駐車場への入出庫の発生や、まちなかの多くの歩行者と自動車との錯綜への適切な対応といった課題があると思います。クルマと人との関係において極めて重要である駐車場のあり方について、しっかりと考える時期を迎えているのではないでしょうか。

森井　そのとおりだと思います。特に車室全体の広さが500㎡未満で、駐車場法による届出義務の生じないコインパーキングには、歩行者のアクセスを配慮せずに出入口が設けられていたりするものもあり、業界としても問題視していました。届出義務のあるなしにかかわらず、駐車場は歩行者や自転車などの安全への配慮がなされたものでなければなりません。

石井　供給量の側面から見ても、あるいは都市の中の場所、配置という質的な側面から見ても、駐車場はまちづくりそのものと密接に関連を有しています。このようなことを踏まえ、それぞれの都市が「目指すべき将来像」に向かって、駐車場と連携したまちづくりを進めることが大切なのではないかと思います。

自転車活用推進本部長であり、超党派の自転車議員連盟にも所属。「議連ジャージ」も持っているが、多忙のためジャージを着てサイクリングをする時間が取れないそうだ

森井　パーキング業界で長く働いてきた一人として「駐車場はまちづくりそのものと密接に関連を有している」という言葉に、改めて身の引き締まる思いです。また、シェアサイクルや放置自転車対策、東京2020大会など幅広い話題にお答えいただき、非常に勉強になりました。今日の対談の内容をパーキング業界の関係者に広く伝え、今後の発展につなげようと思います。本日は貴重なお時間をいただき、誠にありがとうございました。 PP

【パーキングプレス 発行人】森井 博のプロフィール

- 一般社団法人 日本パーキングビジネス協会 理事長
- 一般社団法人 自転車駐車場工業会 会長
- 一般社団法人 日本シェアサイクル協会 専務理事
- 東京京橋八重洲ライオンズクラブ 会員
- 六本木男声合唱団 団員
- サイカパーキング（株）、日本駐車場救急サービス（株）、モーリスコーポレーション（株）夫々代表取締役会長

【略歴】
1938年（昭和13年）宮崎県延岡市生れ80歳。
1957年（昭和32年）石川県立金沢泉丘高校卒
1961年（昭和36年）東京商船大学（現東京海洋大学）卒
1961～1979年 石川島播磨重工業（現：IHI）
1979～1991年 東芝
1991年～ 現職

【趣味】
現在：ゴルフ・車・自転車・歌・仕事
過去：水泳・野球・陸上競技・テニス

【遍歴】
ゴルフ：毎週1回ホームコースでラウンド、週1～2回練習場通い。
車：毎日通勤で運転。中古車3台を大切に乗り廻す。
自転車：マツダレベル、ブリヂストンモールトン、ブロンプトン他数台保有するも年齢を考え余り乗らない。
歌：六本木男声合唱団でロクに楽譜も読めないのに毎週練習に励む。昨年11月にはローマ、バチカン市国の大聖堂でミサ合唱。今年6月にはニューヨーク・カーネギーホールで14曲合唱。
仕事：健康のため平日は毎日9：00～17：00出勤、社員に迷惑をかけている。但し、土、日、祝日は絶対に出社しない。
水泳：漁港で漁師の子供達と一緒に育ったため、小学校に入る前から泳ぎは得意。ちなみに小学校の名前は延岡市立港小学校。
野球：中学生までは本気でプロになるつもりであった。元西鉄ライオンズ 故・稲尾和久投手、完全試合投手 田中勉、元巨人 淡河弘捕手は友人。元巨人監督 原辰徳氏の父 故・貢氏も友人でボクサー犬を貰った仲。
陸上競技：高校時代 短距離、やり投げ、インターハイ2回出場。東京陸協元会長でオリンピック3回出場の大串氏とは友人
テニス：元デ杯選手 本井満氏のコーチでかなりの腕前（？）になるも、45歳時アキレス腱断裂でウィンブルドン出場（？）断念。

過去の対談ゲストの方は、WEBでご紹介しています

パーキングプレス 対談　で検索

または http://www.parkingpress.jp/taidan/ にアクセス

対談記事のバックナンバーもご覧いただけます。